

# わたしのまちづくり



「市民主体のまちづくり」と言われてみなさんは何か具体的なイメージがありますか？  
ここでは、主体的に活動している市民に情報課職員が取材したことを紹介します。



長久手市国際交流協会

日丸 美彦 さん 浅井 弘子 さん 伊藤 雅絵 さん 横田 純子 さん  
池岡 敬三 さん 川口 美智子 さん 大塚 従子 さん

今回は、姉妹都市等との国際交流や外国人支援などについて取り組む、長久手市国際交流協会のみなさんにお話を伺いました。

**情報課職員(以下「情」)**…今日はよろしくお願います。早速ですが、長久手市国際交流協会について教えてください。

**長久手市国際交流協会(以下「協会」)**…長久手市国際交流協会は、国際交流事業や在住外国人のための日本語教室をはじめとする外国人支援について取り組む市民団体です。本協会の目的に賛同する個人、法人等で構成されます。ベルギー王国ワテロー市と長久手市で姉妹都市提携を結んだことをきっかけとして、27年前に設立されました。

## 多文化共生

**情**…市内には、外国から来られた方々がどのくらい住んでいるのですか。

**協会**…約1,200人です。中国、韓国、ベトナム、フィリピンなどアジアを中心に多くの国々の人がいます。私たちもさまざまな国籍の人とお話ししますが、ある悩みを話されるんです。それは、「〇〇出身の外国人といつまでも見られてしまう」、「〇〇やん」

互いのことを知り、新しいつながりができるかもしれません。「まずは笑顔であいさつ」してみませんか。今後は、リモテラスで子どもから大人まで楽しめる企画を予定しています。さまざまな交流をしながら、お互いが日頃感じていることを気軽に相談できる場づくりを目指していきます。みなさんぜひご参加ください。

日本人の子どもや先生とのコミュニケーションのサポートをしています。

**情**…学校で子どもたちのサポートをしているんですね。通訳をしているのですか。

**協会**…先生が言っていることの通訳ではなく、その子が学校の教室の中で孤立しないようにしています。具体的には、先生が言ったことを「やさしい日本語」で伝えるようにしたり、もし分からないことがあったら、「こつこついうふう」に友達に聞いたら教えてくれるよ」って伝えるなど、クラスの子ともたちや先生と、外国人の子どもたちの架け橋となるようにしていますね。ただ、学校の子ともたちは外国人とか関係なく、あいさつなどの言葉をよく掛け合っているのです。打ち解けることが早いように感じますね。

## まずは笑顔であいさつ

**情**…それでは、最後に市民のみなさんにメッセージをお願いします。

**協会**…学校の子ともたちのように、国籍や言語に関係なく、まずは笑顔であいさつをすることが多文化共生の第一歩だと思います。そこから会話が生まれて、お

「〇〇くん」など、一個人として見てくれない。外国人も、「〇〇人」以前に「〇〇さん」なんですよね。私たちも外国では「日本人」として見られるけど、そこで「〇〇さん」として見てもらえると嬉しいように、外国人も一個人として見て欲しいのです。実は、こうした見方がそが「多文化共生」なんです。一人ひとり育った環境が違うので、考え方や文化が違うのは当たり前ですが、それを共に理解し、相手を一人の個人として見る。そうすることでお互いが単なる他人ではなく、もう少し近い存在となり、まちの仲間となる。その結果、多くの文化が共に生きるまちにつながると思います。まさに「日本人と外国人がともに理解しあい、地域の一員として活躍するまちの実現」が、協会の目的です。また最近では、学齢期の外国人の子ともへの働きかけが、とても大切になってきています。市内に住む外国人のうち20〜40代の若い世代が多く、公立の小中学校に通う外国人の子ともも年々増えています。子ども同士でお互いが理解し、学校生活が楽しく過ごせるよう、実際に学校に行って、外国人の子ともと

## 外国人児童生徒への日本語学習支援講座

問 国際交流協会 ☎62-5933

支援に役立つ知識や、スキルを身につける講座を開催します。詳細は協会HPへ。

時 8月26日(木) 13:00~16:00

場 福祉の家 集会室

申 8月12日(木)までに協会へ電話、メールまたは協会HPから申込



協会の活動内容に関する最新情報はこちら

会員募集中!! ぜひあなたのやりたい活動を見つけてください。

